オンラインカジノに係るアクセス抑止の在り方に関する検討会（第5回）

令和7年6月20日

【鈴木利用環境課課長補佐】 本日も、皆様、お忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。定刻となりましたので、オンラインカジノに係るアクセス抑止の在り方に関する検討会、第5回会合を開催させていただきます。

本日の会合はオンライン開催となります。構成員の皆様は、御発言を希望される場合は、事前にチャット欄に発言したい旨を書き込んでいただくようお願いいたします。それを見て、座長のほうから発言者を指名させていただく方式で進めさせていただきます。接続に不具合がある場合は、速やかに再接続を試していただくようお願いいたします。その他、何かございましたら、チャット機能等で随時事務局に御連絡いただければと思います。

本日の資料は、本体資料として議事次第と資料5-1及び資料5-2を用意しております。

議事進行は、曾我部座長にお願いしたいと存じます。よろしくをお願いいたします。

【曾我部座長】 どうもありがとうございます。

皆様、どうもおはようございます。本日もよろしくをお願いいたします。

本日の進行につきましては、事務局より前回までの議論を踏まえました中間論点整理案の骨子について御説明をまずいただきます。その後、意見交換の時間をまとまって取っておりますので、皆様方の御意見をお伺いするということで進めてまいりたいと存じます。

そうしましたら、まず事務局のほうからよろしくをお願いします。

【大内利用環境課長】 ありがとうございます。事務局の総務省利用環境課長でございます。

本日は、まず資料5-1、資料5-2につきまして簡単に御説明をさせていただきます。その後、意見交換ということでお願いいたします。

資料5-1は、こちら、第2回会合以降、構成員の皆様からいただいた御意見をまとめる形で随時更新してまいりまして、検討に向けた視点の整理として御活用いただいていたものでございます。

詳細な説明は本日は差し控えまして、後ほど御参照いただければと思いますけれども、大きな点といたしましては、2ページ目でございますとおり、公営競技を含めたギャンブル全般に関する議論の必要性、依存症等の観点からの議論の必要性が指摘されているということと、4ページに進んでいただきまして、対策としてのブロッキングの有効性について

て、技術的課題があるといった御指摘がある一方、一定の抑止効果があるといった御意見がありまして、こちら、検討の視座として、有効性というものを検証項目として追記したことが挙げられるかと思えます。後ほど御参照いただければと思います。

それでは、本日は、資料5-2のとおり、これまで構成員、また、オブザーバー団体をはじめとするゲストスピーカーの御意見を踏まえまして、事務局として、中間的な論点整理に向けた骨子案を提示させていただいております。構成員の皆様には資料は事前に送付させていただいておりますので、本日、下線を引いたところを中心に、かいつまんで御説明させていただきたいと思えます。

まず、資料をおめぐりいただきまして、2ページ目でございますけれども、こちら、先ほど申し上げましたとおり、検討の基本的視座ということで、これまで随時お示しをしているものでございまして、先ほど申し上げましたとおり、1つ目のオンラインブロッキングに関する4つの検証ステップの案ということで、1つ目の柱として、有効性というものを追記させていただいているのが大きな変更点となるかと思えます。

続きまして、3ページ目にお進みください。1. 検討の背景といたしまして、まず①オンラインカジノの現状認識でございます。下線を引いておりませんが、1ポツに「オンラインカジノ」の定義を書かせていただいております。

その上で、2ポツでございますが、青少年を含む利用者のギャンブル依存や借金等を通じた家族への被害の広がりといった課題の深刻さが明らかとなった。我が国の経済社会に与える弊害も大きいとしております。また、下線は引いておりませんが、スポーツの健全性を確保することが課題となっているところでございます。

4ポツでございますけれども、こちら、書いてございますとおり、政府における基本計画の改定、また、今国会で、つい先日でございますけれども、改正ギャンブル等依存症対策基本法の可決・成立がございまして、こういった動きにも言及しているところでございます。

続きまして、②でございますけれども、包括的な対策の必要性でございます。

1ポツ、オンラインカジノの広がりを踏まえれば、一の対策に依拠するのではなく、官民の関係者が協力し、実効性のある対策を包括的に講じていくことが重要ではないかとしております。例えばということで、支払抑止等もある中でございますが、対策の一つといたしまして、3ポツでございます、アクセス抑止の取組を進めることが有効な対策となるのではないかとしております。

4 ページ目にお進みください。アクセス抑止の在り方について、③でございます。

3 ポツ目でございますけれども、こちら、その前に、場面を分けて幾つか法的な評価をした上ででございますけれども、現行法上、オンラインカジノの利用全体にわたって、オンラインカジノに関する情報の流通に関する行為そのものは必ずしも違法ではないということが、違法情報の発信や閲覧に対する有効な対策の不足といった課題の一因となってきたと考えられるのではないかとしております。

今後、「ギャンブル等依存症対策基本法」の改正等により、削除等の対応が行いやすくなると。また、オンラインカジノ利用が減少することも期待されるとしておりますけれども、その上で、最後のポツでございます、ブロッキングでございますけれども、ブロッキングが法的・技術的に多角的な検討を要する課題であることを踏まえ、現下の状況における被害の甚大さに鑑み、その法的・技術的課題について丁寧に検証するものであるとしております。

続きまして、5 ページ目にお進みください。2. アクセス抑止の全体像とブロッキングでございます。上の四角でございますとおり、一つの方策に依拠するのではなく、抑止策の全体像を踏まえて「できることはやる」という姿勢を持つことが重要ではないかとしております。

この表でございますけれども、上から、端末からサイト運営者、また媒介者まで様々な対策の主なものを例示、列挙しております。こちらの内容について細かく御説明はいたしませんけれども、例えばということで申し上げますと、1 列目のフィルタリングについては、依存症患者や青少年等に一定の効果がある、また、2 列目の情報の削除についても、今後情報の違法化に伴って削除が容易になるといったことを書かせていただいております。また、会議のほうでも、ジオブロッキングですとかCDNへの対応といったことが新たな対策の可能性として示されたと承知しておりまして、こういった点も踏まえた上で、ブロッキングについて、最後の段でございますけれども、それぞれの取組の概要、また、法的・技術的課題、実効性についての指摘を記載しております。技術的な回避がさらに容易になっているといった点についての御指摘もあったところではございます。

続きまして、6 ページ目にお進みください。ブロッキングに関する法的な検討でございます。

以下、大きく4つの柱ごとに、ブロッキング一般についての整理として、基本的考え方としておりまして、その中で、特にオンラインカジノを念頭に置いた整理として、具体的

な考え方というふうに、大きく2つずつ分けて記載をしているものでございます。

まず、①ブロッキング以外の対策が尽くされたかという観点の、必要性に関する項目でございませう。まず、基本的な考え方でございませうけれども、ブロッキングは、全てのインターネット利用者の接続先等を確認し、通信事業者の同意なく遮断等を行うものであり、電気通信事業法が規定する通信の秘密の侵害に該当する。

また、誤って遮断する「ミスブロッキング」や過剰に遮断する「オーバードロッキング」等の課題があることが指摘されている。

ブロッキングが単に有効な対策であるだけでは足りず、他のより権利制限的ではない有効な対策が尽くされたかどうかを検証することが必要ではないかとしております。

続きまして、7ページ目にお進みください。引き続き、必要性に関する検討でございませうけれども、こちら、オンラインカジノに関する具体的な検討でございませう。

1ポツ、フィルタリング、削除、ジオブロッキング等、他のより権利制限的ではないアクセス抑止策の実効性を検証するとともに、支払抑止等のアクセス抑止策以外の様々な対策についての実効性も併せて検証する必要があるのではないかとしております。

2ポツ、フィルタリングについてはでございませうけれども、先ほどの政府基本計画を踏まえ、今後一層の普及促進の取組が期待されるのではないかとしております。

3ポツでございませう。国内のSNS事業者等による削除が一層進むことが期待されることに加え、国外のサイト運営者に対しても、ジオブロッキングの要請を行いやすい環境も整うことから、まずはこれらの対策の効果の検証を行うことが適当ではないかとしております。

4ポツでございませう。また、CDNについても御指摘がございました。CDNサービスへのサイト運営者の依存が高まっているという指摘もございませうので、この点についても検討していく必要があるわけでございますけれども、CDN事業者については、ネットワーク構成において実際に果たしている役割が契約ごとにまちまちであること等もありますので、まずは実態を把握することが求められるのではないかとしております。

最後、政府といたしましては、上記の対策を包括的に進めるとともに、一定の期間を置いた上で、それらの対策を尽くしたとしてもなお違法オンラインカジノに係る情報の流通が著しく減少しない場合には、ブロッキングを排除せず、追加的な対応を講じることが適当ではないかとしております。

8ページ目にお進みください。ブロッキングに関する法的検討のうち、1つ目、有効性

ということで、必要性に併せて、こちらも柱として立てております。対策としてのブロッキングの有効性についての検討でございます。

1 ポツ、ブロッキングについては、技術的な回避策がございますけれども、近年では、特にスマートフォンの機能等によりまして、誰でも容易に回避することができるようになってきているとの指摘があるところでございます。

一方で、2 ポツでございますが、カジュアルユーザや若年層がギャンブル等依存症になる前の対策が重要であり、これらの者に対して、依存症になることを未然に防止するなど、予防的効果があるとの指摘もあるところでございます。

こういった観点も踏まえまして、ブロッキング実施国における実施手法や効果を検証しつつ、引き続きブロッキングの有効性に関する検討を深めていくべきではないかとしております。

線は引いておりませんが、4 ポツは、予防的効果に関して、例えば、オンラインカジノが違法であるとの警告表示を行うことで、よりその効果が上げられるのではないかと御指摘もあるところでございまして、こういった点も併せ鑑みて議論を進めていく必要があるとしております。

9 ページ目でございます。2 番目の検証のステップでございますけれども、許容性でございます。ブロッキングにより得られる利益が失われる利益と均衡するかどうかという点についての検証でございますが、まず基本的な考え方でございます。

仮に、先ほどの検証の結果、ブロッキングを行う必要性・有効性が認められる場合においてでございますが、ブロッキングが国民の基本的な人権である通信の秘密を侵害する行為であることから、閲覧防止のための手段として許容されるためには、ブロッキングによって得られる利益が通信の秘密の保護と均衡するものであるかどうかを検討する必要があるとしております。

こちらは、法的には、2 ポツでございますとおり、電気通信事業法第4条の違法性阻却についての検討ということになるかと思っております。

3 ポツで、児童ポルノサイト、また、海賊版サイトの経緯を書いておりますけれども、考え方としましては、4 ポツでございます。仮に法令行為とする場合には、通信の秘密の重要性を踏まえれば、緊急避難の法理を基礎としつつ、これを類型化して法定化することが考えられるのではないかとしております。

具体的な検討でございます。賭博の保護法益について触れております。「勤労の美風」と

いう社会的秩序であるとされております。これは判例上の用語でございますので、そういう意味では、あくまで引用ということでございますけれども、これのみでは通信の秘密の侵害を正当化することは困難ではないかとしております。

他方、オンラインカジノは、賭け額の異常な高騰や深刻な依存症患者の発生など、極めて深刻な弊害が報告されており、必ずしも賭博罪の保護法益（社会的法益）にとどまらず、刑法上の議論に尽きるものではないのではないかとしております。

以上を踏まえまして、3ポツでございますが、ブロッキングにより得られる利益が失われる利益と均衡するかにつき具体的な検討が必要ではないかとしております。

10ページ目にお進みください。3番目の検証ステップでございます。仮にブロッキングを実施する場合にどのような根拠で行うかという点でございます。

基本的な考え方でございますけれども、上記を踏まえて、必要性・有効性及び許容性が認められる状況においてでございますが、電気通信事業者がブロッキングを行う場合、通信の秘密の侵害に外形的に当たることから、どのような根拠の下で合法的に行うことができるかを検証する必要があるのではないかと。

海賊版の事例において、法解釈（緊急避難の考え方）に基づき自主的にブロッキングの実施を表明した事業者が訴訟を提起され、実質的に敗訴とも言い得る判決が示されたことを踏まえれば、実施主体である電気通信事業者における法的安定性を確保する観点から、仮にブロッキングを行う場合には何らかの法的担保が必要ではないかとしております。電気通信事業者における法的安定性を確保することは極めて重要ではないかとしております。この点、事業者からも意見表明があったというところでございます。

具体的検討は、繰り返しになるところも多くございますけれども、仮に法解釈で行う場合には、対策の法的安定性を欠くことになるのではないかとした上で、仮にオンラインカジノサイトのブロッキングを実施する場合には、法解釈に基づく事業者の自主的取組として行うのではなく、何らかの法的担保が必要ではないかとしております。

11ページ目にお進みください。検証ステップの最後でございますが、仮に制度的措置を講じる場合にどのような枠組みが適切かという、妥当性に関する検討でございます。

基本的な考え方としましては、上記3つの検証を踏まえて、仮に必要性・有効性・許容性が認められる状況において、電気通信事業者が法令に基づいてブロッキングを行う場合、通信の秘密との関係で問題とならないようにするために、どのような枠組みとすることが適切かを検討する必要があります。

ブロッキングの枠組みを検討するに当たっても、当該弊害の除去という本来の政策目的に基づく規制体系の中で位置づけられるべきではないか。ブロッキングの制度設計に当たっても、カジノ規制全般に対する議論抜きにその在り方を検討することは困難ではないかとしております。

以下、具体的な検討につきましては、国内外の制度も参考にいたしまして、少なくとも以下の論点について具体的な検討が必要ではないかとしておりまして、例示でございますけれども、①遮断を義務づける主体がどのようなものであるべきか、②遮断対象をどのように明確化すべきであるか、③実体要件として補充性等の要件をどのように定めるべきか、④として、透明化措置等に係る手続をどのようにすべきか、その他、実施に伴う費用負担、また、誤って遮断した場合の責任の所在など、こういった点について検討を深めていく必要があるのではないかとしております。

12ページ目にお進みください。4. 諸外国の状況でございます。

オンラインカジノのブロッキングは、欧米先進国を中心に10以上の国で実施されていると認識しておりまして、中でも、国家レベルでブロッキングを安定的に実施している国の例として、フランス及びイギリスを挙げております。

フランスにおいては、ギャンブル規制を担当する国の機関が、ライセンスの付与によりギャンブルを一旦合法化した上で、オンラインカジノを含む違法なギャンブルを規制する手段の一つとしてブロッキングを法令上位置づけているところでございます。

下の表は、野村総合研究所の作成した資料でございまして、その下に注記してございますけれども、こちら、オンラインカジノに関する規制全般の整理表でございまして、対策としてもブロッキングに限るものではない表記になってございますので、こちらは精査が必要かなと考えているところでございますけれども、例えばということで申し上げますと、フランスでは、オンラインギャンブルを監督する国立賭博局というところがございまして、こちらが2022年以降、裁判所の命令を介さない形でのブロッキングを実施しておりまして、その件数が1,200件を超えるといった報告もあるところでございます。

13ページ目にお進みください。5. ブロッキングに関する技術的な検討でございます。

①具体的な方式でございましてけれども、ブロッキングについては、「DNSポイズニング方式」や「URLフィルタリング」等の技術が知られているところでございます。DNS方式は、簡易で安価に実装できる等のメリットがある一方で、URL方式は、DPI装置が高価であり対応可能な事業者が限られる等の課題が指摘されているところでございます。

2 ポツでございます。児童ポルノのブロッキングですとか、そういった点も踏まえますと、ブロッキングは、できるだけ多くのISPが参加することで実効性が上がるものことから、中小事業者を含む電気通信事業者が義務として遮断を行う手法としては、DNS方式が望ましいのではないかとしております。

②技術的回避策への対応でございます。こちら、有効性に関する検討でも挙げられている論点ではございますけれども、技術的な観点から回避策に対してどのように対応していくのかという点については、諸外国における取組等も参考にしつつ、ISP間での情報共有や国による技術開発の支援等を通じて、対策の実効性の向上を図っていくことが適切ではないかとしております。

以上、14ページ目でございますけれども、これを概括的整理と今後の検討に向けてということで、1枚にまとめております。

1 ポツでございますけれども、オンラインカジノは、深刻な弊害をもたらしており、喫緊の対策が求められるのではないかとした上で、違法オンラインカジノをギャンブル規制の中でどのように位置づけ、実効的な対策を実現するかという観点から包括的に取り組む必要があり、政府全体で対策の在り方を検討していくべきではないかとしております。

その上で、1、2ということで、まずは官民の関係者が協力した包括的な対策、2としまして、包括的な対策の中で、アクセス抑止を有効な対策の一つとして検討すべきとしております。

2 ポツでございます。アクセス抑止策の一手段であるブロッキングについては、「通信の秘密」や「知る自由・表現の自由」に抵触し得る対策である。そのため、実施の必要性を判断するに当たっては、今後の規制環境や犯罪実態の変化等を踏まえ、他の権利制限的ではない手段が十分に尽くされたと言えるかを検証する必要があるとしております。ブロッキングにより得られる利益が失われる利益と均衡しているかを検証していくべきではないかとしております。その際、ブロッキングは技術的な回避が容易になりつつあるといった課題がある一方で、予防的な効果があるとの指摘があることも踏まえ、ブロッキングの有効性に関する検討を深めていくべきではないかとしております。

3 ポツ、それでも被害が減らず、仮にブロッキングを実施せざるを得ない場合には、ギャンブル規制における位置づけや法的安定性の観点から、法解釈に基づく事業者の自主的取組として行うのは適切ではなく、法的担保が必要としております。その上で、先ほど申し上げました遮断義務付け主体の在り方を含めた様々な具体的な論点について検討してい

くべきではないかとしております。

以上、事務局から骨子案の御説明をさせていただきましたので、これに基づきまして御議論いただければと考えているところでございます。

ありがとうございます。

【曾我部座長】 どうもありがとうございました。

それでは、これから1時間余り、中間論点整理案の骨子、ただいま御説明いただいたものにつきまして、意見交換を行いたいと存じます。これは冒頭御連絡いただいたとおり、御発言希望がありましたらチャット欄に御記入をいただければと思います。

ということで、まずは山口構成員、お願いいたします。

【山口構成員】 骨子案につきましては、これまでの議論を丁寧に整理していただいて、私からは特に異存はございません。

それで、骨子案に特に今から付け加えていただきたいという趣旨ではございませんけれども、スポーツベッティングに関連して、私が交流を持っているヨーロッパの規制当局の方々にブロッキングの有効性についてお話を伺ったので、御参考になればということで、ちょっと発言をさせていただきたいと思います。

フランスの規制当局は、先ほど御案内があったとおりで、国立賭博局ですけれども、その国立賭博局の最高責任者でパレルモ・シビアールさんという方のお話では、フランスにおいては、アクセスブロッキングによって違法なカジノサイトの削減につながっていると。それから、一部の悪質カジノサイトは、フランスをターゲットにしてサービスを送りつけることをついに諦めたということであって、ブロッキングの有効性は確認されているというお話であります。

フランスでは、当初裁判所の手続を必要としていたんですけれども、その後、法制度を改正して、行政手続のみによってブロッキングを実施できるようにしておりますが、そのように制度改正をした結果、より迅速にブロックができるようになって、有効性が高まっているということでありました。

それから、デンマークの賭博局のオルセンさんという法務官の方にもお話を伺いまして、デンマークにおいても、やはり違法なカジノ事業者の削減につながっているということで、アクセスブロッキングに関しては、有効という評価であります。

それから、デンマークのオルセンさんが言っていたのは、意図せず違法サイトにアクセスをする利用者、カジュアルユーザに当たると思うんですけれども、その人たちを保護す

る効果は確実にありますというお話でありました。

あと、スポーツベッティングに関わる官民の連携組織で、コペンハーゲングループという組織がありまして、そのコレンティンさんというチェアマンがいるのですけれども、そのチェアマンの方は、ヨーロッパ全体を見渡していて、ブロッキングは違法業者への有効な対策の一つとして広く認識されていると。ブロッキングが実効性があるというだけではなくて、消費者の違法性に対する認識の向上、それから、啓発や教育にも重要な役割を果たしていますということであります。

特に、日本のように基本的に賭博が違法であるというような国においては、ブロッキングに向けての議論が継続的に行われているという事態が大きな抑止力となり得るのだというようにございました。

あと、ギリシャの方は間接的に聞いたので、お名前がはっきりしませんけれども、ギリシャにおいても、同じように有効性はあるという評価ということで、ヨーロッパの国々においては、アクセスブロッキングはオンラインカジノの違法業者を削減し、消費者を保護する上で有効性があるという評価がどうも一般的であるようでありました。

以上でございます。

【曾我部座長】 山口構成員、貴重なインプットありがとうございます。

こちらは、事務局のほうで何か反応的なものはございますか。

【大内利用環境課長】 ありがとうございます。事務局でございます。

諸外国の状況についての御指摘については受け止めて、事務局といたしましても、しっかりと文献調査をするとともに、現地調査などでしっかりフォローアップをさせていただき、その内容について、また今後も情報提供させていただきたいと考えているところでございます。

事務局としては以上です。

【山口構成員】 もし必要であれば、今日は口頭での御報告といたしましたが、何らかのメモなどにまとめてお出しすることもできるかと思えます。よろしく願いいたします。

【曾我部座長】 どうもありがとうございました。

今の御指摘も十分留意して、今後調査を進めていただければと思っておりますので、よろしく願いいたします。

続きまして、森構成員、お願いいたします。

【森構成員】 御説明ありがとうございます。これまでの議論をしっかりおまとめい

ただいたと思います。

私のほうから何点からあるのですけれども、まず、3点申し上げておこうと思います。

資料の頭のほうからですけれども、2ページ目、これはぜひともお願いしたいんですけれども。テキスト的には全く何の問題もない説明を書いていたでいて、絵も分かりやすいんですけれども、ちょっと細かいことなんです、円形になっているわけですよ。矢印が4本あって、左肩のもの、④番から①番のところを、これを矢印だけ取っていただきたいと思います。

というのは、テキストでまさに明らかにされていますように、①番、②番、③番と進むわけですね。その順番で、要するに、まずできるかどうか、やれるのかということを検討して、やるとしたらどうかというのが③番、④番ということになりますので、こういうふうに丸にしてしまうと、スパイラルアップするものであるかのように受け取られる可能性があります、①番、②番、③番、④番という順番で一方向的にリニアに検討が進みますので、この左肩の矢印は、これはミスリーディングなので、取っていただきたいと思いません。それが1点目です。

2点目は、5ページ目、アクセス抑止の全体像とブロッキングというところなんですけれども、ちょっと細かいことと申しますか、御説明もなかったところではあるのですけれども、CDN対応の行の概要の列はこれでいいといたしまして、主な法的課題、主な技術的課題のところ、対応に応じて要検討（ブロッキング類似の対策である場合、通信の秘密の保護との関係で整理が必要）とあるのですけれども、ドメインでブロックするということは、結局は、サーバ的にはCDNのサーバをブロックするということではないかと理解しております。というのは、アクセスを受けているサーバは、CDNのサーバだからですね。ですので、ここでしているブロッキングの議論そのものが、ブロッキング類似の対策であれば、通信の秘密との関係で問題ということですので、ある種当然のことしか書かれていないわけですね。

CDNに対して何が期待されているかというか、我々はなぜCDNをここで議論の対象にしているかということにつきましては、先般、JAIPAの皆様をはじめとして御説明いただきましたように、CDNによる送信防止ができるのではないかと申すことですね。1つには、閲覧者のIPアドレスを手がかりにして、近い場所のサーバから配信をしているのではないかと申すこと。それを考えると、オンラインカジノサイトを日本に配信しないという制御が合理的に可能であるわけですので、そういうことをCDN側に申し出ることが当然できるのでは

ないか。

ここまでは当然なんですけれども、法的課題・技術的課題ということになりますと、法的課題としては、やはりそういう要請を実効性のあるものとするために、CDN事業者が違法情報の媒介責任を負う場面があるのではないか。そういう議論をさせていただきましたし、先ほどの基本的視座についてのところで、私の意見として取り上げていただいたところかと思えます。法的課題としては、やはりCDN事業者の違法情報媒介責任、これが法的課題であろうかと思えます。

そして、右側の技術的課題というところなんですけれども、これは日本向けの配信が具体的にどのように行われているのか、サーバはどこにあるのか、そういうことが技術的課題になってくるのではないかと思います。それが2点目です。

3点目はスライドの8ページです。1ポツのところ、技術的回避策が容易であるということをお書きいただいております、DNSサーバを迂回する方法、パブリックリゾルバを使う、これも簡単にできますけれども、やはり何より強調したいのは、ここにお書きいただいたことが多分そうだと思うんですけれども、プライベートリレーで回避できてしまうということだと思います。そうなりますと、iPhoneユーザが約半分いるという日本の状況では、そのうち iCloud を使っている人はどのぐらいいるかという話がありますけれども、非常に多くの、インターネット利用者の4割とか5割がプライベートリレーで簡単にブロックングを回避できるのではないかということになるかと思えます。そうしますと、それは果たして有効と言えるのかどうかということですね。

我々が児童ポルノブロックングを検討したとき、そして、海賊版サイトブロックングを検討したときには、プライベートリレーはまだなかったと思います。そのような状況では、回避可能とは言いながら、そこまで簡単にあっさり回避できるものではなかったわけですが、そのような今のような状況になってきますと、議論の状況は全然違う、ゲームチェンジが起こっているのではないかと思います。

2ポツのところですが、カジュアルユーザや若年層がギャンブル等依存症になる前の対策が重要ということですが、私、手元に正確な統計を持っておりませんが、iCloudの利用率は若年層のほうが高い、これはほぼ間違いないだろうと思います。何しろ写真を撮らなければいけないというようなことがありますので。そうしますと、全体の人口からすると半分ぐらいかもしれないかもしれませんが、若年層だったらプライベートリレーを使っている人がさらに多いのではないかと思います。そのような状況下で、カジュアルユーザに

対して予防的効果があるとの御指摘があるということですがけれども、御指摘があるのはそのとおりだと思いますけれども、私はカジュアルユーザに対する予防的効果もないと考えます。

以上です。

【曾我部座長】 どうもありがとうございました。

そうすると、森構成員の御指摘としては、一部修正が必要ということになりますでしょうかね。

【森構成員】 そうですね。この矢印はちょっと。

【曾我部座長】 まず、この図ですかね。

【森構成員】 はい。これはちょっとテキストと違うのかな。ちょっと申し訳ないんですけども。

【曾我部座長】 確かに、そう言われてみると、そういう気もします。そうすると、サイクルで描くよりはリニアに描いたほうが本来よかったけれども、この段階ですので、この図のサークル、円形は維持した上で、矢印だけを取るということになりますかね。最後の④と①のところの矢印。

【森構成員】 はい。そこだと思います。

【曾我部座長】 でも、どうですかね。やってみたけれども、やっぱり有効でなかったということが分かれば、また①に戻る。そういう趣旨ではないかなとは思うんですけども。

【森構成員】 それは、有効性の検討不十分でやってみたということだと思いますので、ちょっと違うかなとは思いますがね。

【曾我部座長】 趣旨としてはそういうことだと思うんですけども。それを踏まえても、やっぱり外したほうがより正確であるという。

【森構成員】 そうですね。もう一度、やはり必要性・有効性の検討が十分ではなかったみたいな事態は望ましくないと思いますので。

【曾我部座長】 もちろん、それはそうですね。

こちら、事務局のほうでいかがでしょうか。御趣旨も含めて、補足等あればお願いします。

【大内利用環境課長】 事務局でございますけれども、この2ページ目の図表につきましては、真ん中の矢印も実はリニアに描いていまして、そこでの整合性という観点からも

ですね。すみません。私個人としては、別に④から①に向けた矢印を取ること自体は、ほかの構成員の皆様への御理解が得られるのであれば、そこはそれほどこだわらないといえますか、修正してもいいのかなというふうには考えているところでございます。

その他、2点ほどいただいておりますけれども、5ページ目のCDNの件、そういう意味で言いますと、我々も実態調査が必要だという、ある意味課題だけを今回書かせていただいている関係上、ここの課題のところはある意味当然のことしか書いていないというのは真摯に受け止めたいと思っております、今先生おっしゃっていただいたような法的な課題、媒介責任の在り方ですとか、また、技術的な課題について、もうちょっとブレイクダウンして書けるようにしたいと思います。

また、8ページ目の点については、有効性の点ですね。アップル社の個別のサービスを書くということがややためらわれたこともあって、プライベートリレーとは書いておりませんけれども、スマートフォン上の機能ということで、一応触れさせていただいた上で、この回避の容易化という点については、記述としては触れさせていただいておりますし、御指摘も踏まえたいと思います。

その上で、山口構成員からもあった諸外国の状況なども併せ鑑みた上で、引き続き、この効果については検討していくということかなと思っておりますので、有効性に関する検討を深めていくべきという記述については、一旦このままとさせていただけると大変ありがたいかなと思います。その上で、様々我々のほうでも知見を深めたいと思っております。

【曾我部座長】 ありがとうございます。

なので、この8ページの記述は、ひとまず今日のところはこのままとさせていただきたいと思いますが、最初の図のところ、リニアにしなくて、④から①の矢印は一旦取るとのことと、あと、5ページのCDNの記載は、ブロッキング類似の対策というところに不必要にクローズアップがされているように思います。

というのは、私も森構成員と同じで、CDNに対応する場合、ある種の媒介者としての責任を問うというイメージで捉えておりましたので、いずれにしても、今現状だと実態を探るということですので、このCDN対応の括弧書きはひとまず取ってもいいのかなと思うんですけれども。

ですので、私の提案としては、2ページ目の図の矢印を取ることと、このCDN対応の括弧書きを取るのがまず御提案なんですけど、ほかの構成員の皆様も御意見あるかと思っておりますので、もしこのまま残したほうがいいのかという御意見があれば、ほかの構成員

から御発言意向をいただいているのですけれども、ひとまずこの点について御発言がありましたら、お知らせいただければと思いますが、いかがでございましょうか。

よろしいですかね。

そうしましたら、今の2点、CDN対応の括弧書きを取るのと、④から①の矢印を取るということで、修正をさせていただきたいと思います。

ということで、森構成員関連の議論はひとまずこちらにいたしまして、では、次、田中構成員、お願いいたします。

【田中構成員】 ありがとうございます。

私のほうもちょっと研究者にお願いをしまして、諸外国の事例で、今オーストラリアがオンラインカジノの問題に全力を挙げて取り組んでいるところなので、オーストラリアはブロッキングについてどういうふうになっているかなというところをちょっと見ていただいたんですけれども、オーストラリア通信メディア庁というところが、このブロッキングをしているんですね。

その調査によると、ブロッキング開始以来、違法のギャンブルウェブサイトがブロックされて、180件の違法なサービスがオーストラリア市場から撤退したと言っているんですね。あと、53%ぐらいのオーストラリアの違法サイトが、自らの意思で撤退したか、または、ブロックされたまま、この回避をせずに、一切行っていないというようなデータが出ているので、私としても、諸外国の事例というのをここから先もう少し検証していただいて、諸外国のほうで有効性があるというふうのエビデンスが出ているのであれば、それを踏まえて御議論を重ねていただきたいと思いますなと思っております。

骨子案のところに特に何か訂正といったものはないんですけれども、このたび、昨日、参議院のほうでも、ギャンブル等依存症対策基本法が改正されまして、オンラインカジノが違法であるということが明記されて、期待される効果としては、広告の削除などが警察庁から要請されたときに、容易にできるようになるのではないかなというようなことが見解として出されています。

ただ、広告は削除できても、このオンラインカジノ自体は残っているわけなんですね。そして、前にも申し上げましたけれども、Xなんかは今でも物すごく広告が載っていたり、あと、個人ユーザみたいな人たちがオンラインカジノについてたくさん発信していて、それは一向に減っていないんです。

そして、これだけオンラインカジノのことが騒がれていますけれども、私たちの現場か

らもオンラインカジノの相談は全く減っていない状況があつて、むしろ増えているんですね。なので、この法案が成立した後に現場がどういうふうになっていくのかということも、引き続き検証していただきたいなと思っています。

さらに、昨日法案が通ったというところですがけれども、結局のところ、違法だと明記されたということと、広告が削除しやすいのではないかとことなので、実態としては、このままオンラインカジノが残ってしまうということ、撤退させるようなものが何もない、方策が何もないというような現実があつて、私たち現場としては、ブロッキングもしていただかないと、今の悲惨な現実というのを変えられる手段が何もないという状況なんですね。

なので、ぜひ先生方、このギャンブル依存症の現場で起こっている悲劇、そういったことに対しても、きちんと検証していただきたいとか、向き合っていただきたい。そして、オンラインカジノの主催者側というのは、違法だということは重々承知の上でこれだけのことをやってきているので、本当にあくどいとか、そういった人たちなんだということ、そこに対して太刀打ちできるすべが何もないという現実があるんですね。なので、その中で、ブロッキングもやはりやっていただきたいというのがギャンブル依存症の支援に関わる我々のたつての願いだということを重ねてお願いしたいなと思っています。

以上です。

【曾我部座長】 ありがとうございます。

深刻な実情をインプットいただいたかなと思いますけれども、1点だけ私から確認というか、事務局にお願いというなのですが、オーストラリアの事例について御言及いただいたんですけども、こちらは現状、調査の対象にはなっていないのでしょうか。このオーストラリアの事例というのはどういうふうに扱われる御予定になりますか。

【大内利用環境課長】 ありがとうございます。事務局でございます。

実施しているという情報のみ接しておりますして、詳細については深掘りの検討をしていないところではございますけれども、特に欧州大陸に我々は限るつもりはございませんで、やはり諸外国の状況、極めて重要な課題であるということが改めて本日認識できたかなと思いますので、法的な検証に対する貢献という観点から、文献調査をした上で、我々も世界一周する覚悟で、いろいろと実態をしっかりと見極めていきたいと考えておりますので、その点については、しっかり我々のほうでフォローアップしたいと思います。

もう1点、議員立法の点について田中構成員から御指摘いただきまして、ありがとうございます。

ございます。一応骨子にも書かせていただいておりますけれども、これに基づく削除の進展というのは極めて大きな今後の見極めるべき環境変化要因であろうと思っておりますので、警察庁とも連携しながら、しっかりその状況については我々も見極めていきたいと考えているところでございます。

以上です。

【曾我部座長】 どうもありがとうございます。

オーストラリア事例につきましては、せっかくのインプットですので、ぜひ御活用いただいたらと思いますので、よろしく願いいたします。

では、次に参りまして、鎮目構成員のほうからお願いします。

【鎮目構成員】 ありがとうございます。

事務局におかれましては、これまでの議論を大変丁寧におまとめいただきまして、誠にありがとうございます。

全体の方針に関しては賛成でして、特に異論等はございません。

ブロッキングを検討するに先立って、まず、補充性の観点から、ほかの手段を尽くしたかという点を慎重に検討すべきという点については、賛成でございます。諸外国の状況との比較という視点などはもちろん大切ですが、やはり日本における通信の秘密についてのこれまでの位置づけ、考え方を踏まえた検討が必要であり、ブロッキングが通信の秘密を侵害するものであるということ的前提とせざるを得ない以上は、通信の秘密を侵害しない、あるいは、侵害の程度が軽微な他の手段をまず考えるべきというのは、真つ当な方向性かと思われまます。

その上で、事務局に1点確認させていただきたい点がございます。スライドの7ページの「必要性（ブロッキング以外の対策が尽くされたか）」の具体的な検討という部分なのですが、他のより権利制限的ではないアクセス抑止策の実効性の検証というものをどのように行うのかという点つき、確認させていただきたく存じます。こうした検証の在り方としては、例えば、専門家や研究者の知見を参考にするとか、あるいは、ブロッキングを実施していない非実施国で、かつ、ブロッキング以外の方法を用いてオンラインカジノに対して取組を行っている外国の状況を参考にするといった、そういう抽象的な検証の方法もあるかと思いますが、7ページのスライドでは、最後のポツのところ、政府として、当面の間、上記の対策を包括的に進める、一定の期間を置いた上で、それらの対策を尽くしてもなお違法オンラインカジノに係る情報の流通が著しく減少しない場合には、ブロッキン

グを排除せず、追加的な対応をと書いていただいていますので、これはそういう抽象的な検証方法ではなくて、実際に一定の期間を定めて、大規模に行うのか、やや小規模に実験的に行うのかといった考え方はあり得るかと思いますが、実際にブロッキング以外のアクセス抑止策を先行的に実施した上で、その実効性の検証を行うという理解でよろしいでしょうか。そのほうが、より確実に有効性の検証を行うことができるので良いかなとは思っておりますが、その点を確認させていただければと思います。

私からは以上です。

【曾我部座長】 ありがとうございます。

こちらは事務局のほうにお尋ねですので、事務局のほうにお答えいただけると幸いです。

【大内利用環境課長】 ありがとうございます。

鎮目先生の御指摘のとおり、他のアクセス抑止策の効果というものが今後の検討の大きな前提の一つになるという点については、我々も認識しているところでございます。

先ほども申し上げましたとおり、もともとこの検討の出発点というのは、例えば、警察庁の実態調査等において、極めて賭け額が大きいですとか、その他依存症の問題とか、そういった点を出発点にしまして、そこからどれぐらい今後減らしていけるのかという点が、政府全体でもしっかり課題として認識されているところと考えておきまして、全てではないと思いますが、一つの有効な対策である削除については、先ほどもございました議員立法で、ギャンブル等依存症対策基本法の改正法は可決・成立したところでございますので、これを踏まえて、特に総務省、警察庁中心に関係省庁連携して、これを最大限活用する形で、削除の促進といった取組を今後進めていくところとしてございます。

例えば、資料にも書いてございますけれども、関連するガイドラインを見直すなどして、より削除を行いやすい環境整備というのをしっかり行いたいと思いますし、実際の法律の施行は3か月後でございますけれども、それに先立って様々な対策を打っていくことによりまして、今年の後半にかけて、その効果はどのような形で表れるのかということについては、調査なのかどうかというところはよく関係省庁で議論したいと思いますが、何らかのフォローアップをして、その状況についてもお示しをするということが求められているのかなと思いますので、本日の先生の御指摘を踏まえまして、具体的な在り方については、関係省庁でよく議論していきたいと考えております。

事務局からは以上です。

【鎮目構成員】 ありがとうございます。

結構かと思えます。どうもありがとうございます。

【曾我部座長】 ありがとうございます。

では、次に、長田構成員、お願いいたします。

【長田構成員】 長田です。まず1つは、山口構成員に質問がありまして、海外でのブロッキングの有効性があるという事実をお伝えいただいたんですけども、山口構成員御自身として、日本の通信の秘密を侵すことと海外でのブロッキングの有効性をはかりにかけたときには、やはりブロッキングをさっさとやりなさいということをおっしゃりたくて、そういう情報をお伝えいただいたのかどうかというのを確認させていただきたいなと思ったので、質問があります。

それと、もう一つは、カジュアルユーザのところなんですけれども、カジュアルユーザに対してブロッキングなどの手法が有効で、まず接する機会をなくすということが大切だというのは、田中さんのお話からも、おっしゃっている意味は分かるのですけれども、その手法として、やはり通信の秘密を侵すものについて、新たにまたこの手法を許していくということについて、私としては戸惑いがあることと、あと、ブロッキングそのものの有効性に対しても、結局は様々な課題があって、有効性は期待できないというような技術の皆さん、業界の皆さんのお話などを伺っていると、本当にカジュアルユーザに対して効果があるのかどうかについても、もう少し丁寧な検証を是非していただきたいなと思っていきますということを申し上げたいと思いました。

以上です。

【曾我部座長】 どうもありがとうございます。

こちら、先ほど来の海外調査も含めて、重要な点でありますので、慎重に議論をしていくということになるかなと思います。ありがとうございます。

では、次に、黒坂構成員、お願いいたします。

【黒坂構成員】 黒坂でございます。

まず、中間論点整理案につきまして、大きく私は異存ございません。中身を、これまでの議論、水面下の議論も含めまして、丁寧に整理いただいていると思っております。

先ほどの曾我部座長の修正案につきましても、私も賛成ですので、そのように進めていただくというのがまず基本的なスタンスでございます。

コメントを幾つかさせていただき、最後は質問を1つ、事務局向けになるかと思えますけれども、発言させていただきます。

まず、この「はじめに」、2ページ目のところ、ここが全体を整理いただいているわけですが、この基本的視座（案）の2ポツ目のところで、電気通信事業法が定める「通信の秘密」の保護に外形的に抵触しというのは、構成員の皆様や事務局にはもう釈迦に説法もいいところではありますが、電気通信事業法4条で定められているのと同時に、その根拠として、憲法21条2項後段に裏づけられているというふうに解釈するのが通説であろうと、私も理解しております。

ですので、ここは非常に重要な論点である。すなわち、ブロッキングをするべきという御意見は心情としてはよく分かるものの、やはり憲法的価値ということを重ねなければいけない部分、それぐらいやはり法治ということ考えると重い話であるということが、ドキュメントの中に書かれる必要はないと思いますが、当たり前のことではあるものの、一応テークノートの議事録にも書いておいていただけるとありがたいなと。誰かが言わないといけないかなと思いましたが、取りあえず発言をいたしました。

その上で、この資料の構成が私は重要とっておきまして、3ページ目に、検討の背景で、①で現状認識があり、その次に包括的な対策の必要性が②としてありというふうに示されています。さらに次のページは、③アクセス抑止の在り方なのですが、ちょっと戻っていただいて、①のところ、様々な論点がここで書かれていて、ここで書かれていることは全く問題ないかと思えますし、とりわけスポーツベッティングは今後さらに大きな問題になる可能性がある。これは従来のオンラインカジノ、いわゆるポーカーであるとか、バカラであるとか、そういったことだけのものではなく、様々な、例えば、選手であるとか、審判であるとか、こういった関係するステークホルダーを巻き込んでいく、非常に被害実態が大きいものになっていく可能性がありますので、あらかじめ警鐘を鳴らしておくということは非常に重要だろうと思えます。

一方で、率直に申し上げて、オンラインカジノの被害実態についての全体的な調査というのが、私、まだまだ足りないと思っています。この検討会を通じても、有識者による先行調査の発表であるとか、警察庁にも発表していただいて、非常に精力的に調べていただいているというのはあるのですけれども、オンラインカジノの利用環境について、明確に詳細に、専門家の知見も含めて、調査設計されたものとして、こういった分析が行われているとは残念ながら言い難いところがあると思っています。

例えば、パソコンを使ってこういったオンラインカジノにアクセスするのか、スマートフォンによってアクセスするのかというのは、実は大きな違いがあるはずで、これは通

信環境という観点でもそうであれば、ノートパソコンを四六時中開いて、街中でも歩きながらパソコンを開いてオンラインカジノをやっている人というのはあまり現実的ではない一方で、スマホならそれが実現できるという、依存性の問題ですね。こういったことも含めて、様々環境が違うわけです。こういったところも含めて、総合的な対策をしていかなければいけない。つまり、対策のための基礎的な情報というのがまだまだ不足しているというのが私の認識です。

とりわけ今回は、ブロッキングであるとかアクセス抑止という通信環境、つまり利用環境、ここについてフォーカスを当てている議論でもありますので、こういったことをより詳細、なおかつ、できるだけ早急に大規模に調べていく、しかも、これを継続的に調べていくことで初めて必要な対策が絞り込まれていくだろうと思います。

ですので、論点は非常に重要ですし、今起きている依存症の方々の被害実態が深刻である。これも十分同意をした、理解は足りないかもしれませんが、理解した上で、まだまだやはり情報を急いで集めて、正確に分析をしてということをしなければいけないだろうということが背景として理解されるべきではないかと考えております。

以下、アクセス抑止に関しましても、そういった観点で、技術的な評価はもちろんですが、容易性ということについても、誰にとってどの程度容易なのかということも今後の検討課題になっていくかと思っておりますので、ここで書かれていること自体、例えば、5ページの表の中で書かれていること自体は、構成員も含めて吟味いただいたので、異存は全くございませんが、それがどのようなものなのか、どのような実態なのかということを引き続き詳細に調査をいただく。これは総務省ももちろんそうですし、それ以外の省庁も含めて、連携しながら進めていただく必要があると思っておりますので、このように検討、取組を進めていただきたいというところでございます。

その上で、先ほどとあまり変わらないかもしれないんですけども、事務局に質問というか、ある意味リクエストなんですけれども、今後諸外国の詳細な状況ということ調べていくときに、今のような被害実態を誰がどのように調べて、どういった責任体系でやっているのか、あるいは、ブロッキングも含めた対策が制定されていった経緯及びそこにおける憲法的な価値との対峙、ないしは比較衡量についても調査をしていただきたいということです。

私がこれを言うのも変なんですけれど、やはり憲法の観点で、日本、アメリカ、ヨーロッパ、オーストラリア、あるいはヨーロッパの中も国々によって、違うはずです。つまり、

我々が背景としてよって立っている法治、ないしはその考え方が、国々によって違う。これは表現という面でも様々出てくる場所です。こういった、そもそも立脚点が違うというところを踏まえた上で、誰が何をどのように評価しているのかということ冷静に分析しないといけない。

これが技術的手段にも、これを選択した、ア prioriにこれが選択肢として選ばれたというところにも関係してくると思いますので、なかなか通り一遍でできないという意味では難しく、依頼する方々、お願いする方々に汗をかいていただくことになるかと思いますが、ただ、そこまでやらないと、先ほど冒頭申し上げましたとおり、重い判断になりますので、正確な判断ができないであろうということを改めて御留意いただきたいというわけで、そういった調査を進めていただけないかというのが、質問というか、リクエストに近いというのが私の意見でございます。

すみません。長くなりました。以上です。

【曾我部座長】 どうもありがとうございます。

包括的な対策の必要性とありますところを、それを行うためには、正確なエコシステムである、あるいは利用実態である、あるいは規範的な観点であるというところで、まさに包括的なリサーチというか分析が必要だという御指摘だったかなと思います。全くおっしゃるとおりでありますけれども、なかなか大変なところでもあるのですけれども。

事務局のほうで何か御反応というのはおありでしょうか。

【大内利用環境課長】 黒坂先生はじめ、皆様から改めて諸外国の深掘り調査に対する期待が表明されているという状況について、我々もしっかりと受け止めさせていただきたいと思います。

特に、法制度があるところですか、規制官庁が既に設置されているところであれば、例えば、その規制の執行状況とかを踏まえて、各国の実態を調査するというのももちろんですし、先ほど黒坂先生からあったような、経緯ですとか法的な背景も含めた立体的な把握ということも課題かと思いますが、どこまでやれるかというところはありますけれども、最大限しっかりとやっていきたいと思っております。

以上です。

【曾我部座長】 ありがとうございます。

では、次に、長瀬構成員、先にお願いたします。

【長瀬構成員】 ありがとうございます。

今回、事務局のほうからいただきました骨子案ですけれども、私におきましても、内容につきまして、今まで議論されていたことをしっかりまとめていただいているなど。あと、現時点でのということですが、最終ページの今後の検討に向けてというようなところの方針につきましても、全く異存のないようなところでございます。

そこを踏まえた上で、今まで森先生ですとか、黒坂構成員ですとか、各先生方がおっしゃられていた一つ一つの論点というところについては、今後また深掘りしていくというような話なのかなという形で聞いていたところでございます。

森先生よくおっしゃられている有効性というところにつきましても、いろんな考え方があるのだなというのを、今ちょっと横で聞いていながら、そういうふうにして感じたところでもございますし、黒坂構成員おっしゃっていただいた、私の捉え方とすれば、多分、立法事実という話になってくるのかなと思いますけれども、そこは有効性とも絡むようなところで、田中構成員のお話も踏まえて、そういったところをまた検討していく必要があるのかなと感じていたところでございます。

そういった意味で、大枠というところで、現時点のものに関しましては、私、この中間的な整理というところは全く異存のないところかなと感じておりまして、今後深掘りしていくというようなところで、議論を進めていく話かなというふうにして感じているところでございます。

ひとまず以上でございます。

【曾我部座長】 ありがとうございます。御賛同いただく御意見ということで、大変ありがたく存じます。

そうしましたら、森構成員、お願いいたします。

【森構成員】 ありがとうございます。二度目で申し訳ありません。皆様の御意見を踏まえてというよりも、ちょっと私、長くなるので、半分ずつ申し上げるということでございます。

若干細かいこともあるのですが、まずは、10ページ、もしかしたら何かの機会に、要するに、実施根拠、法令でというところですが、申し上げていなかったかもしれませんが、基本的考え方の3ポツのところ、一般論として、法解釈によるブロッキングには、常に訴訟リスクが伴う点に留意が必要ではないかということなのですが。

これは御趣旨は分かりますが、実際にここで表現しようとしていることというのは、法解釈によるブロッキングにおいては、個々の実施事業者が訴訟リスクにさらされるので

はないかということだろうと思います。これだけ読むと、法解釈ブロッキング、自主的ブロッキングだったら訴訟が起こるけれども、法令によるブロッキングだったら訴訟が起こらないということであるかのように感じられるわけですが、これは全く逆でして、法令によるブロッキングをする場合でも、訴訟は必ず起こるだろうと思います。

そして、法令によるブロッキングに関する訴訟、これは違憲訴訟ということになると思いますけれども、そのほうが張り切って参加する人は増えるということもその実態ですので、ここはどちらかと言いますと、常に訴訟リスクが伴うというか、訴訟リスクは常にあるのですけれども、個々の事業者が訴訟リスクにさらされるという問題があるというふうにさせていただいたほうがいいのかなどと思いました。それが1点目です。

2点目は、12ページ、諸外国の状況のところでした、皆様から多く指摘のあったところなんですけれども、私、修文の関係として若干お願いしたいのは、この上の四角囲みに、イギリスとフランスのことを紹介するのであると。2ポツのところ、フランスにおいては、これこれの機関がこれこれした上で、違法ギャンブルを規制する手段の一つとしてブロッキングを法令上位置づけている。3ポツのところ、先進主要国を中心として、更なる深掘り調査を実施予定ということでもいいんですけれども、表の運用状況の行に書かれている1ポツのところ、ライセンスを取得していない違法事業者に対して500件の停止命令 (cease-and-desist notices)、これは削除の話になっております。

それから、一番下の行、検討の動向のところなんですけれども、賭博委員会に対して、違法サイトのIPアドレス・ドメイン名の裁判所への停止申請の権限を付与する。これもブロッキングのことではなく、ドメインを使えなくする、IPアドレスを使えなくするという話です。ちょっとブロッキングとは違うのかなと思っておりまして。その点は、一番下のところに米印で「オンラインカジノに関する規制全般の整理表であり、ブロッキングに限るものではない」と書いていただいているので、全体としては正しいと思うんですけれども、やはり上の記載がありますので、ちょっとミスリーディングかなといいますか、全部ブロッキングの話かなと読んだ方が思ってもいけないと思いますので、この上の四角囲みの4ポツに、この注意書き、ブロッキング以外のことも書いていますよというのをに入れていただくのがいいのではないかと思います。

それから、今後海外調査等をされる、していただく上で、まず1点目は、先ほどの黒坂さんの御指摘は非常に重要であると私も思います。全く重要な御指摘だと思いました。国による憲法的価値が違っていること、法制度が違っていることがどのような影響を与えて

いるかということですね。

すごく簡単に言ってしまうと、例えば、インターネットの自由を守るのに、アメリカは表現の自由が非常に強調される国なわけでございます。EUはプライバシー、データ保護が強調される国なわけでございます。それに対して、日本では通信の秘密を非常に重要なものとして守ってきたわけですので、例えば、ドイツでブロッキングについて通信の秘密が制限されているから、日本でやってもいいんだという話には直ちにはならないということは非常に重要であるかなと思っています。

それから、2点目ですけれども、これら諸外国がプライベートリレーによるゲームチェンジに対応しているのかどうかということも非常に重要ではないかと思います。例えば、フランスは2010年から、イギリスは2005年からというふうになっておりますけれども、プライベートリレーが普及したのは、ここ二、三年のことではないかと思います。それに対して、諸外国が果たしてその制度見直しを行えているのかどうかということは、必ず調べていただきたいと思います。

なぜこんなことを申し上げるかと言いますと、私自身、現在の児童ポルノブロッキングに深く関わっております。アドバイザーとして、事務局として児童ポルノブロッキングを進めるほうの立場にいるわけですけれども、しかしながら、いつの間にかブロッキングの実効性が失われて、有効性が失われているということであれば、見直しを本来はしなければいけないのかもしれませんが、なかなかそういうことが提案できていなくて、今回のオンラインカジノブロッキングの検討を通じて、そういえばその問題があったなと思い返しているわけなんですけれども。それはもしかしたら諸外国も同じで、プライベートリレーによるゲームチェンジのことを失念しているのではないかという心配があるわけでございますので、調査においては、そのことも考慮していただくのがいいのではないかと思います。

最後に、14ページ目ですけれども、これは非常にまた細かい話なんですけれども。1ポツ目の縦2のところ、上記の包括的な対策の中で、アクセス抑止についても、有効な対策の一つとして検討すべきとありまして、アクセス抑止策の例としまして、端末等におけるフィルタリング、サイト運営者等による削除、通信事業者によるブロッキング等というふうにあるわけですが、ここはサイト運営者としては適法にやっているパターンが多いという話だったのかもしれませんが、どちらかというジオブロッキングにさせていただいたほうがいいのかないかなと思いました。CDNだと削除ということになるのかもしれませんが、いず

れにしても細かいことですが、気づいたので念のために申し上げておきます。

以上です。

【曾我部座長】 ありがとうございます。

少し修正に関する御指摘もあったかと思しますので、事務局のほう、いかがでしょうか。

【大内利用環境課長】 森先生、ありがとうございます。細かく見ていただきまして、我々としても、御指摘を受け止めたいと思います。

まず、10ページ目の実施根拠のところでございますけれども、まさに御指摘いただいておりますとおり、この基本的考え方の3ボツの訴訟リスクの点は、例えばですけれども、オブザーバーのJAIPA様からお話をお伺いしたときも、やはり個々の事業者が訴訟リスクにさらされるという事態を、仮にやるのであれば、避けてほしいという意見表明があったこと等を、また、海賊版の判例もそうですけれども、踏まえて記載しているものでございますので、その趣旨が伝わらない表現だったのであれば、その点は、御指摘も踏まえて、曾我部座長とも御相談の上、修正をさせていただいたほうが、より真意が伝わるのかなと思っております。その点については、また御相談をさせていただければと思います。

12ページ目でございますけれども、諸外国の点、非常に多くの御指摘を受けておまして、我々もちょっと網羅的な調査ができない段階で御検討をお願いしているという点は、非常に^{じくじ}忸怩たる思いがございます。

まさにイギリスの事例を含めて、より記載の正確さを図っていくということはもちろんでございますけれども、現時点のスナップショットとして世の中にお示しする上で、どのような表現が適切かということについては、森先生の御指摘も踏まえて、曾我部座長と御相談をさせていただきたいと考えているところでございます。

最後の14ページ目のところは、アクセス抑止の例として削除が適切かという点については、まさに御指摘のとおり、これ、実はCDN等を念頭に置いておったわけでございますけれども、より分かりやすく書いたほうがいいのではないかという観点だとしますと、この点も含めて、記載の在り方については検討させていただければと考えております。

ひとまず以上です。

【曾我部座長】 ありがとうございます。

閲覧防止措置という言い方をしますので、アクセス抑止という中に削除も入れてもおかしくはないのかなと思っております。いずれにしても、後ほど御検討いただければと思います。

そうしましたら、JAIPAの野口さんから御発言希望をいただいておりますので、お願いいた

します。

【日本インターネットプロバイダー協会】 プロバイダー協会の野口です。オブザーバーですが、申し訳ありません。

森先生おっしゃったとおり、御指摘、大変ありがたいと思います。法令行為であっても、違憲訴訟の被告というのが一旦ISPになるということではないかなと思いますので、実質としては違憲訴訟なんだろうけれども、日本の場合は、訴訟の被告というのが結局具体的な事件ということで、ISPがブロッキングをするのはおかしいと。それは、この法律が憲法に違反するからだという主張になるのではないかと思いますので、そうすると、やっぱりISPが被告になることも、しっかりとリスクについて今後議論していただけたらと思います。

以上です。ありがとうございます。

【曾我部座長】 ありがとうございます。そこは確かにおっしゃるとおりかなと思います。

では、田中構成員、お願いいたします。

【田中構成員】 すみません。二度目なんですけれども、申し上げたいと思うんですが。

ここにいらっしゃる先生方皆さん、児童ポルノとか海賊版とかにもう既に関わられた先生方なので、御議論のほうももう熟された感じがあるなと思っております。その中で、先生方がおっしゃっている、それじゃ、ブロッキング以外にギャンブル依存症者を、これ以上オンラインカジノによるギャンブル依存症を増やさないとか、ギャンブル依存症者を助け出す方策というのでは、ブロッキング以外に、先生方、何をお考え、ほかにどういうことがあると思われているのか。それはもうギャンブル依存症の現場のほうで考えなさいということなのかもしれないんですけれども、私たちとしては、それが諸外国で有効だというようなデータが出ているので、ぜひ、日本の国民を守るためにも、それをやっていただきたいと思っています。

でも、日本は憲法解釈が全く違うという、そこもちゃんと踏まえて、海外のエビデンスはあるけれども、日本国憲法のそこに鑑みたときに、日本はそういうわけにはいかないと言われると、我々は、本当に自分たちは基本的人権を平等に守られているのかなという気持ちになります。オンラインカジノによるギャンブル依存症のことで苦しむ家族や当事者たちに対しては、諸外国で効果が出ているのは分かるけど、日本国憲法ではそういうわけにはいかないんですよという、そのエビデンスが無視されてしまうのかなと思うと、私た

ちは日本国憲法で守られている、等しく平等な権利ということに対してはどうなってしまうのかなど。

あと、ブロッキングが駄目となると、じゃあほかに何をすればいいのということが、現場からは本当に悲痛な思いでいます。そこに対して、先生方は考えていただけるのか、また、この先も、これが有効なのかどうなのか。私は、先生方がおっしゃっているような予算をギャンブル依存症対策で取れるのかどうかというのは、今までの経験から鑑みて、国はそこまでの予算を提供してくれるということがちょっと現実的に考えられないなと思っています。この効果がギャンブル依存症対策にあったかどうかとか、引き続き大規模調査をやってくれるような。というような思いがあります。

とにかく、諸外国でそういうエビデンスが出ているのであれば、私たちにも平等に憲法で守っていただく権利があるということを申し添えたいと思います。

【曾我部座長】 ありがとうございます。

森構成員、今の御発言に対するコメントでしょうかね。お願いいたします。

【森構成員】 ありがとうございます。

今の田中さんの御意見についてなんですが、まず、ギャンブル依存症の被害が重篤なものであるということは、恐らくここにいる構成員は共有できていると思います。

また、もう一つは、その対策としてあらゆることを検討していこう、できることはやっ
ていこうと考えていると思っていたんですが、どうも今のお話を聞きますと、ブロッキング以外に方法はないのであるとおっしゃっているように聞こえました。ブロッキング以外のことをしなくていいのでしょうか。

先ほど田中さん御自身がおっしゃったように、Xには体験情報があふれているかもしれませんが、報告もたくさんあるかもしれません。そういったものを違法にして、違法にはもうなったのかもしれませんが、削除させていくということは、ぜひとも直ちに、明日からでもやっていただくべきことではないかと思えます。

決済もそうです。クレジットカードで決済されているという信じ難い状況にありますよね。これも止めていくべきではないかと思えます。クレジットカードの決済を止めることができないなんて言われても、そんなことは到底信じ難い。なぜなら、クレジットカードで決済できない違法なサービスというのはたくさんあるからです。

それから、ジオブロッキングはどうでしょうか。これは日本では違法なんですよということで、実際にやっている海外の事業者を持ちかけて、そのジオブロッキングをしてもら

う。日本からのアクセスをやめてもらう。さらに言えば、CDNの状況、これはもしかしたら国内にサーバがあるのかもしれませんが。そして、国内にサーバがあるかないにかかわらず、賭博場開張罪は国内犯として既に成立しているわけですから、関係者に対する立件を進めていかなければいけないのではないのでしょうか。

そういう対策が様々あって、やるべきことがいろいろある中で、ほかのことはしなくてもいいけれども、ブロッキングをやれというようなお話のように承りました。むしろブロッキングのことは可能性として検討しつつも、ほかのことを進めていくべきなのではないのでしょうか。どうしてブロッキングをここで何でもいからさっさとやれみたいな話になるのか、よく分かりませんでした。

以上です。

【曾我部座長】 すみません。今、田中構成員は、必ずしもブロッキング以外のことはやらなくてもいいということをおっしゃったわけではないかと思しますので、その辺は誤解のないようにしていただければと思います。

この中間論点整理の骨子案では、まさに今、森構成員おっしゃったようなことも含めて対策をとった上で、ブロッキングについてはその効果を見ながら引き続き検討するという方向性になっておりますので、そういう意味におきましては、大きな方向性では、田中構成員、森構成員、今回の骨子案についてコミットいただいているのかなと思っておりますので、いずれにしても、両側から重要な観点を、論点を明確にさせていただいたやり取りかなと思っております。

【森構成員】 すみません。ちょっとよろしいでしょうか。

この報告、今回の取りまとめが、ブロッキングも手段として入れた上で、それが最終的なものであるということにしていることについて、皆さん同意されていると思うんですけども、今の田中さんの御意見というのは、そういうものではなかったと思いますね。ほかのことは既にできなくなっているから、ブロッキングをやれというようなお話ではなかったかと思しますので、私は、今回の中間論点整理の骨子を支持している、コミットしていますので、今の田中さんの御意見は違うんじゃないかということを申し上げました。

【曾我部座長】 なるほど。ありがとうございます。

田中構成員も、この中間論点整理には御賛同いただいているということですので、先ほどの御発言だけからすると、そういうニュアンスと受け取られたということかなと思いますが、基本的なお考えとしましては、力点の置き方は多少違うということかと思えますけ

れども、この骨子のほうに御賛同いただいているということかなと思います。

では、黒坂構成員、お願いいたします。

【黒坂構成員】 黒坂です。今のお二人のやり取りに関連してなんですけれども、実は、7ページで、そこについては一定の整理がされていると思っています。具体的検討の中で、「オンラインカジノについては、フィルタリング、削除、ジオブロッキング等、他のより権利制限的ではないアクセス抑止策の実効性を検証する」、ということがまず書かれています。

例えば、フィルタリングなんてそんなに意味ないじゃないかという指摘がありますが、私も青少年保護の観点で、電気通信事業者の皆さんにフィルタリングを、お願いするよりも、これはほぼ義務化している取組があって、一定程度の抑止力になっている、ないしは、少なくとも直ちにアクセスできない状況をつくることによる制限としてフィルタリングの一般的な効果があるということは理解しています。

ですので、そんなものはすぐ抜けてしまうので外してしまうんだというようなことが議論されるとすると、それは逆に、ではブロッキングも残念ながら割と簡単に迂回できちゃうんですよという話にすぐつながってきってしまうことでもあります。ですから、ここは、あらゆる手をまず尽くしてみることが重要であろうということ、ここについては議論が既に整理されているのではないかと考えています。

森先生がおっしゃった中で、この中で書かれていないはずであるもので言うと、決済の話、御指摘がありました。私も全く同意で、なおかつ、決済については、ありていに言うと、総務省の範疇ではない、恐らく金融庁であるとか、こういったところの協力が必要であるということだと思っています。

私は、実は、この中に書かれていること、このことからブロッキングの話をしているので、決済の話はここに必ずしも書く必要はないと思っていますが、決済の対応も必要だと思っています。すなわち、それこそが、この総務省の検討だけではなく、とにかくあらゆる省庁、警察庁も含めて、あらゆる省庁が強力に連携し合って、できることをとにかくやり尽くすのだというようなことが必要だということでもあると思っています。

決してブロッキングは絶対にやっちゃ駄目だということをここで言っているのではなく、ただ、やはり順番があるだろうということでもありますし、逆に言うと、より簡単と言ったらあれですけど、すぐできることをまずやっていく、なおかつ、それを継続的に調査することによって効果を確かめていく。この手続というのは、まどろっこしいとお考えの方

も当然いっちゃうかと思いますが、ただ、まどろっこしさを省いてしまいますと、あらゆる手続の正当性が失われてしまうわけでもあります。ですので、ここは、非常に私も心苦しい言い方にはなるのですが、きちんと歯を食いしばって、できることをきっちり、できるだけ早くやっていくということが必要だろうと考えました。

以上、コメントさせていただきます。

【曾我部座長】 大変包括的な補足的なコメントいただきまして、ありがとうございます。

では、田中構成員に御発言をいただきたいんですが、時間の関係もありますし、もう既に御意見の違いというのは明確になっているかと思しますので、次の田中構成員の発言をもちまして、このやり取りについてはひとまずということにさせていただければと思います。

ということで、田中構成員、お願いいたします。

【田中構成員】 ありがとうございます。

先生方、できることを全部やっていくというふうにおっしゃっていただいて、今までこのオンラインカジノの対策については、警察庁さんはじめ、何度も議論してきたことなんです。そして、できることというのをやって、先ほどおっしゃったような決済代行業者とか、非常に難しいという現実があるということを経験もされてきたと思うんですけども、その報告に対しても、いや、そうじゃないと、まだ手ぬるいみたいなことをおっしゃられても、現実、それが世界的にもできないということがあるわけですから、その報告に対して、いやいや、もっとできることがあるはずだみたいなこと、どれだけ報告してもそうになってしまうということが、非常に私としては、それじゃ、もう何を言ったらいいのかなという気持ちです。

そして、警察庁さんはできる限りのことを今本当にやってくださっていると思うし、警察庁の皆さんも、オンラインカジノに関しては物すごい労力を割いて、本当に労多くして実り少ないこの案件に対してやってくださっているというのが現実です。

だから、私が言っているのは、そこまでやってもこのオンラインカジノの件というのは、もちろん今までやってきたこともやり続けます。だけど、それではとても太刀打ちできないぐらい、オンラインカジノというのは本当に侵入してくるというか、あくどいことをされてしまうので、ぜひともオンラインカジノもブロッキングのほうもやっていただきたいと思っているというところです。十分だというふうにお考えなのがむしろ不思議ですと言

いますけれども、これまでも本当にいろいろ警察のほうでもやってくさっています。やれることは全部やってくさっているし、それが確実にもうこれ以上できることはないと言っても、この国には予算もありますし、人手もありますし、そういった現実的なことを考えたら、ブロッキングもやっていただいたほうが我々は助かるということです。

【森構成員】 どうしてそんな、決済とか検挙については十分やっていて、これ以上手の打ちようがないとおっしゃるのか不思議ですけどね。やっぱり依存症の害を防ぐためには……。

【田中構成員】 すみません。じゃ、先生が、この働きかけとか、この国に私たちもさんざんやってきましたよ。でも、私はここでバトルをするつもりはないので。先生がもう、私が何を言ってもそうじゃないというふうにされるので、もう私はここでの発言はこれ以上やめたいと思っていますし、私たちも、このオンラインカジノについて、ブロッキング以外のことというのも本当に話し合ってきたし、本当に様々なところで御尽力もいただいたと、そのことに感謝もしているということは伝えたいなと思っています。

【森構成員】 なるほど。ブロッキング以外はできているということですね。

【田中構成員】 どうして先生、そういうふうにおっしゃるんですか。本当に悪意しか感じないです、森先生の。どうしてそうやって私の発言に極論で答えられるんでしょうか。

【森構成員】 いや、ただ、その……。

【曾我部座長】 森先生、ちょっと申し訳ないんですが、先ほど申し上げたとおり、今のやり取りは、まさに今7ページが一番下のポツの方針をしっかりとやる必要がある、真剣に考える必要があるということが今のやり取りから示されたのかなと思うということで、そういうことで引き取らせていただければと思います。

【田中構成員】 ありがとうございます。私は本当にそう思っております。

【曾我部座長】 ということで、時間の関係もごさいますけれども、もしほかの点、あるいは、ほかの構成員の方々から言い残したことがあるということがありましたら、御指摘いただければと思いますが、いかがでしょうか。

私から、今の議論とは全然違うところで、一つ気になっていることを申し上げたいんですけれども、包括的な対策、これは3ページのところの背景的な部分なんですけれども、この間、青少年を含めて、若者にオンラインカジノが広がった背景の一つとして、やはり無料のサイトがあるということが一つ入り口になって広がってしまったという部分があるのかなと思っています。今般成立した改正法も、こちらの無料サイトについては、特段

の対策が、少なくとも条文上はないと。まさに刑法についても、無料については犯罪ではないということですが。

ただ、包括的な対策ということで申しますと、入り口対策として、無料サイトに何らかの対応をするということは重要なことだと思っております。例えばですけど、②の包括的な対策の必要性の最初のところに周知啓発というのがありますけれども、違法であることの周知啓発というのは、これはまさに実際に賭博をすれば違法なわけですが、無料なものについては違法ではありませんので。しかし、周知啓発は少なくとも必要だろうということもありますので、例えば、この辺りに無料サイト、無料サービス、無料アプリに関する記述をどこかに入れていただくといいのかなと思っております。つまり、入り口としての無料サービスもやっぱり視野に入れる必要があるということをごまかに1か所でも書き込んでおくのが重要なことだと思っておりますので、その辺りも御検討いただければと思います。

そのほか、構成員の皆様方、いかがでしょうか。

よろしゅうございますか。

そうしましたら、本日の議論はこれまでとしておきたいと思っております。活発な御議論、貴重な御意見いただきまして、どうもありがとうございました。構成員の皆様からいただいた様々な御意見を踏まえまして、中間論点整理案の修正・反映を行いまして、次回の第6回会合におきまして、中間論点整理案の取りまとめを行いたいと考えております。

ということで、次回会合につきまして、事務局から御連絡をお願いいたします。

【鈴木利用環境課課長補佐】 ありがとうございます。次回、第6回会合なんですが、7月8日火曜日の午後1時からを予定しております。中間論点整理案の取りまとめのほうを予定しております。詳細については、追ってお知らせさせていただきます。

事務局からは以上となります。

【曾我部座長】 ありがとうございます。

以上をもちまして、オンラインカジノに係るアクセス抑止の在り方に関する検討会、第5回会合を終了とさせていただきます。本日は皆様、お忙しい中、御出席いただきまして、また、活発な御議論いただきまして、誠にありがとうございました。また引き続き、よろしくお願いたします。

では、終了いたします。

以上